

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

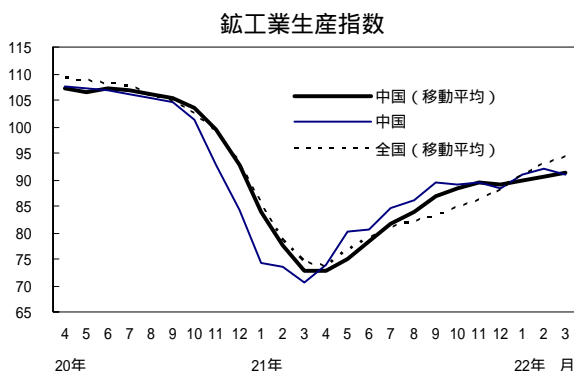
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

鉄鋼は、自動車向けを中心に増加している。化学は、複数の事業所で定期修理があったこともあり、スチレンモノマー、ポリエチレン等を中心に減少している。輸送機械は、国内および北米向け、中国等新興国向けの乗用車を中心に増加している。一般機械は、一般用蒸気タービンの大型案件などにより増加している。電子部品・デバイスは、薄型テレビや携帯電話用のコンデンサが好調であるものの、モス型半導体集積回路等を中心に減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

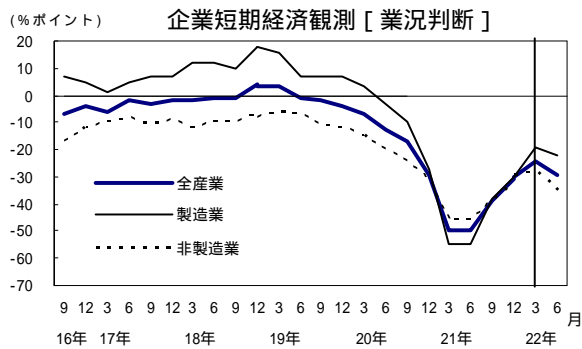
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
鉄鋼	16.5	9.2	6.0	4.2	5.0
化学	16.1	5.4	3.1	3.1	4.8
輸送機械	14.8	2.1	6.7	3.2	1.9
一般機械	10.7	1.1	13.3	11.9	2.4
電子部品・デバイス	7.3	9.8	2.5	3.4	-
鉱工業	100.0	2.8	2.6	0.4	1.2

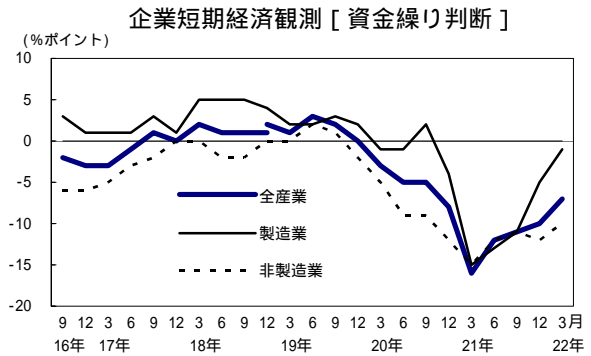
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

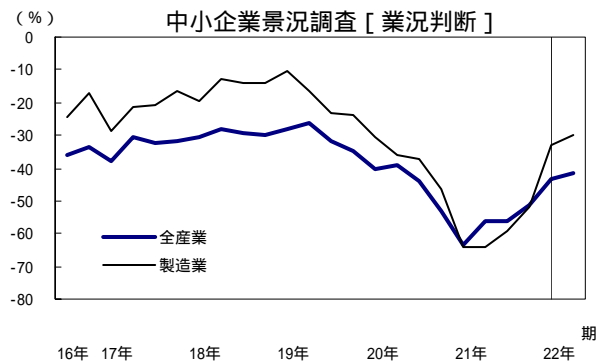
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

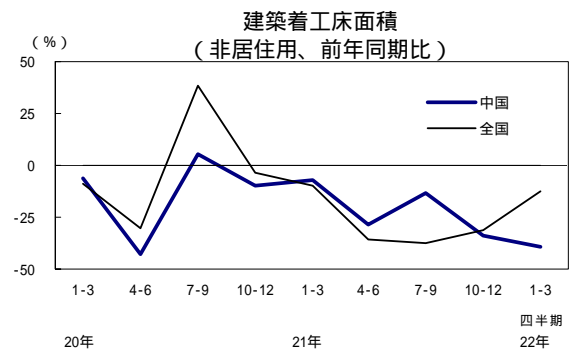
「製造部門の稼働率は依然として回復していない。特にセメントの生産は内需の縮小による影響を受けており、生産規模も縮小せざるをえない(化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度見込
全産業	24.0(4.4)	6.8
製造業	30.1(4.4)	9.6
非製造業	16.6(4.5)	4.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

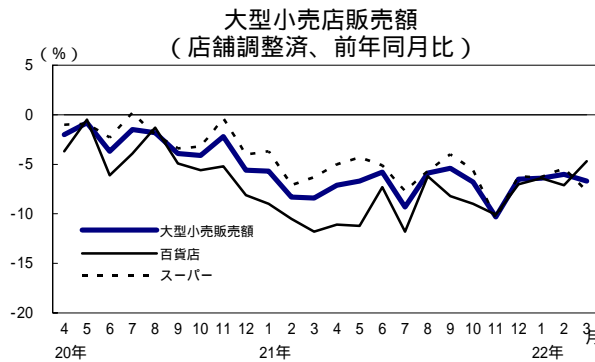
大型小売店販売額

1月は、主力の衣料品の不振に加え、セールを前倒した影響や初売りの不振などから、前年を下回った。2月は、衣料品が前年比二桁マイナスで推移するなど厳しい状況が続き、前年比の減少幅が拡大した。3月は、天候不順の影響もあり、衣料品の不振は続いているものの、低迷していた美術品や宝飾品などの高額品の一部で持ち直しの動きが出てきたことから前年比の減少幅は縮小した。中国四国百貨店協会によると、4月の中国地区の売上高は、前年同月比で4.6%減となっている。

スーパーは、商品単価の下落や節約志向が続くなか、衣料品が天候不順により春物を中心に低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「美術、宝飾等の高額品に対する富裕層の購買力は上向いてきている。しかし、寒暖の差が厳しい天候も一因ながら、紳士ビジネススーツを中心に衣料品は低迷が顕著である。ただ3月以降、来客数は前年を上回り、わずかながら明るい兆しがみえている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

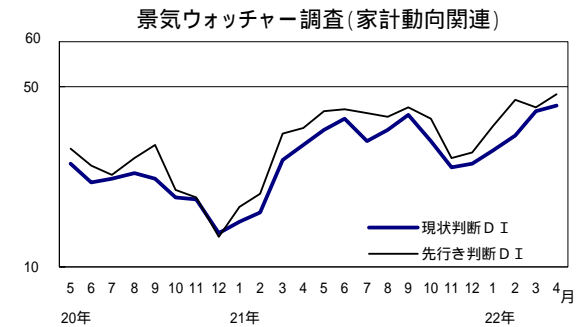
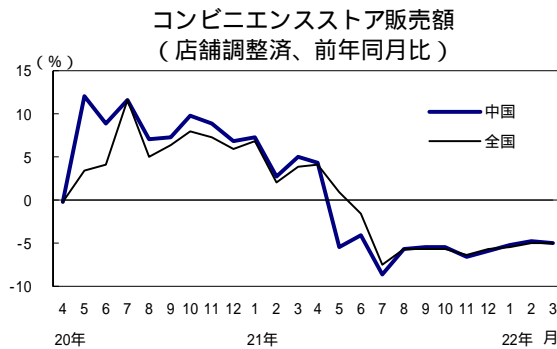


	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	6.6	7.0	7.8	6.4
百貨店	9.9	9.1	8.5	6.0
スーパー	4.8	5.9	7.3	6.5
乗用車	13.0	4.0	18.2	22.3
景気ウォッチャー	40.2	40.7	34.4	39.9

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

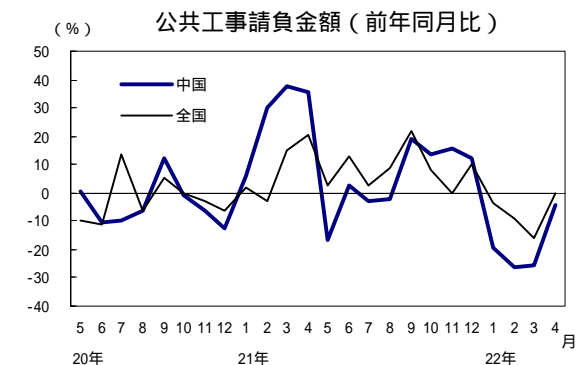
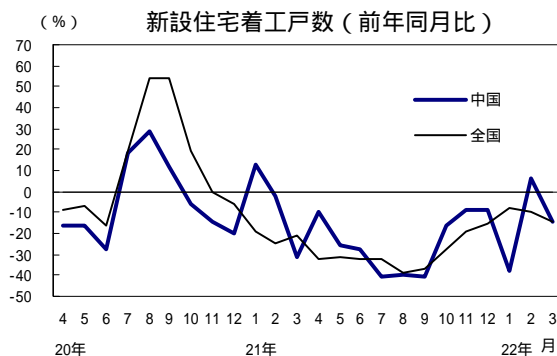
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

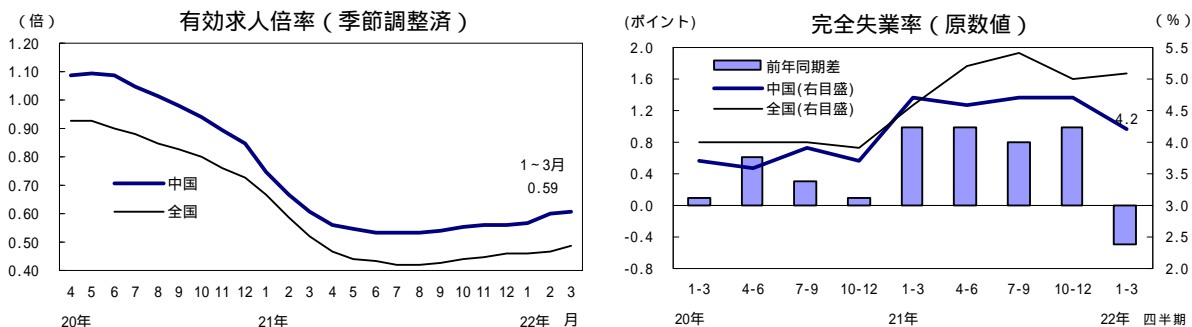


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

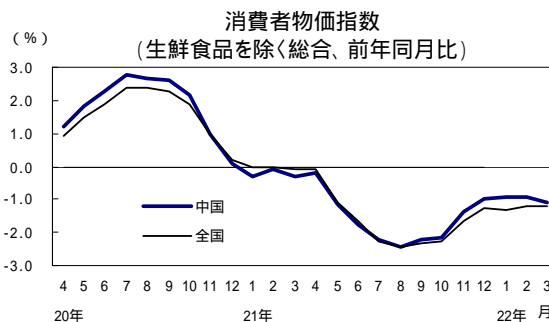
「製造業を中心に業績が回復しており、関連サービス業も業務が繁忙化しつつある。前年実績を下回った企業も、今期は増員を計画するなど、船舶関連会社等では明るい材料も出始めてきている (民間職業紹介機関)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数	147	156	156	118	38
(前年比)	26.1	17.5	21.6	33.7	32.1
負債総額	744	325	466	367	96
(前年比)	12.3	90.1	8.1	61.4	56.5



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (4月)

- ・4月は、需要月の反動が予想されたが、販売において前年ほどの極端な減少もなく推移している (乗用車販売店)

<先行き> (4月)

- ・取引先の売上は前期比マイナスの状況が続いている。景気回復も一部で伝えられるが、経営者からのヒアリングでは、いまだ末端まで景気回復の兆しがみえないとの発言が多い (金融業)

